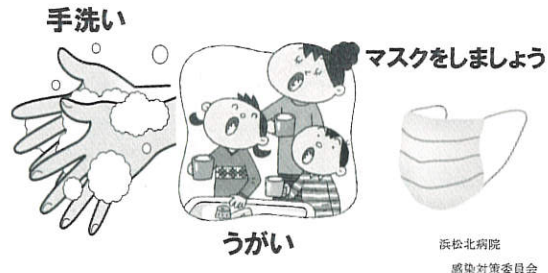


予防をしましょう！

インフルエンザ・ノロウイルスには・・・



## 職員募集

あなたの‘キャリア’を生かしてみませんか！

☆看護師(正職員・パート)

☆看護助手(正職員・パート)

※中途採用も随時受け付けております。ブランクのある方には研修も行っておりますのでお気軽にご相談ください。

※病院見学も随時受け付けておりますので、ご希望の方はご連絡ください。

連絡先:浜松北病院

看護部 TEL 053-435-1111(代表)

【担当:藤原】

### 編集後記

2014年の下半期は、御嶽山噴火や台風上陸等の自然災害が多々あり、暗いニュースが続いたように思います。その中で、浜松市内出身者からノーベル物理学賞が受賞され、明るい話題となりました。度重なる失敗も、辛抱強く取り組むことの大切さを強く感じました。まずは、小さなことでも目標を持ち、それに向かって日々を過ごしていきたいものです。

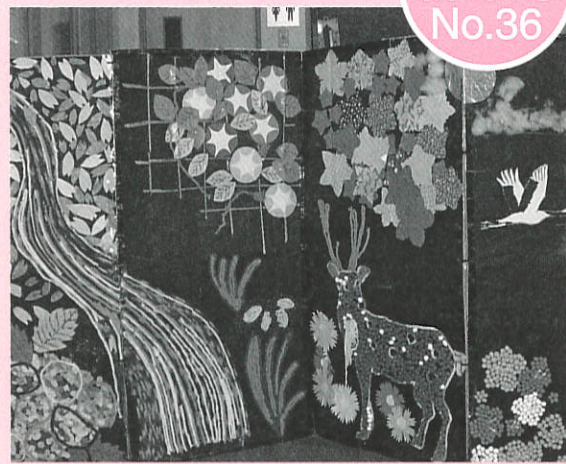
2015年も、皆様にとってよい1年でありますように。

盛翔会だより

# 翔き

はばた

2015  
新年号  
No.36



利用者の皆様渾身の作品です。  
おおせ第二デイサービスセンター



医療法人社団 盛翔会  
浜松北病院

大瀬介護保険センター おおせの郷(ショートステイ)  
訪問看護ステーション大瀬 訪問リハビリテーション大瀬  
おおせデイサービスセンター おおせ第二デイサービスセンター

### 基本理念

思いやりを基本とした愛情ある医療と福祉を实践する。

職場紹介

## 在宅診療部

新年おめでとうございます。

近年は、『在宅医療への転換期』という追い風があり、平成25年4月に在宅診療部が設立されました。通院が困難となった方を対象に、ケアマネージャーさんと訪問看護師さんと連携を図りながら退院後の在宅療養の支援をしています。具体的には、2週間に1度の定期訪問(訪問診療)と体調の急変時の臨時訪問(往診)を行っています。体調を崩し在宅療養が困難となった時には、急性期病棟との連携をスムーズに行い入院治療もご提供しています。また、最期の時を住み慣れたご自宅で過ごされたい患者様におきましては、ご本人やそのご家族の思いや考え方に沿いながらご自宅でのお看取りもおこなってきました。

私達の法人内には、訪問看護、訪問リハビリ、デイサービス、ショートステイなどの在宅サービス部門があります。訪問診療を受けている患者様がこれらサービス部門をご利用している場合は、患者様の状態や介護状況の変化についてのリアルタイムの情報共有を心掛け在宅診療上の迅速な対応に役立てています。

在宅診療を希望する患者様が退院される際は、ご家族をはじめ院内スタッフ(在宅診療部スタッフ・医療相談員・病棟看護師・病棟リハビリセラピスト)、ケアマネージャー、在宅サービス提供所担当者(訪問看護師・訪問リハビリセラピスト・訪問ヘルパー・訪問入浴や福祉用具の事業者)が一堂に会し退院前カンファレンスを開いています。『患者様とご家族が安心してご自宅で過ごしていただくために』は、患者様の病状や治療・介護の方針などの情報を、在宅療養を支える多職種間で共有することが大切であると考えており、在宅診療部が多職種間の情報共有のためのコーディネートの役割も果たしています。

さらに高齢化が進む今日、国は入院療養を少なくし、ご自宅でごせる地域づくりを加速させようとしています。在宅診療部がご自宅で療養をしている方々に安心を提供できるよう努力し、地域に貢献していきたいと考えています。

\*訪問診療は、以下の予定で計画を入れています。担当 医師:竹内 看護師:辻村

	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	外来診療	●	外来診療
午後	訪問診療	●	訪問診療	訪問診療	訪問診療	休

※ホームページ上で詳細なパンフレットも公開しています。  
訪問診療の利用に関する事は、医療連携室へお問い合わせください。





院長 澤田 健

## 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

平成27年、医療法人社団盛翔会は浜松北病院として開院32年目を迎えました。「地域の皆様のお役にたてる医療機関」をめざし、「思いやりを基本とした愛情ある医療と福祉を实践する」ことをモットーに職員一丸となって努力してまいりました。おかげさまで多くの皆様に利用され、この地域になくてはならない存在となっているものと感じています。急性期一般病床、回復期リハビリテーション病床、医療療養病床に加え、訪問看護ステーション大瀬、大瀬介護保険センター、訪問リハビリテーション大瀬、おおせデイサービスセンター、おおせ第2デイサービスセンター、おおせの郷（ショートステイ）、さらに平成25年度より地域の診療所と連携した在宅医療連携サービスも開始いたしました。

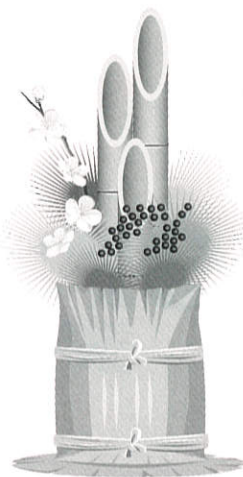
平成25年厚生労働省は、団塊の世代が75歳以上となる超高齢化社会への対応として、この在宅医療を中心とした地域包括ケアシステムを提唱しました。この構想のバックボーンとなるのが24時間入院受け入れ可能な後方支援病院ですが、この役割も当院一般病床の義務ととらえています。

さて、高齢化で膨らむ医療介護費、少子化で困窮する年金基金問題等に対して国は「税と社会保障の

一体改革」と称して消費税を10%に上げて不足分を捻出し解決するといっています。長引くデフレ経済に対し日銀は大胆な金融緩和を行いました。それにより、為替は円安に誘導され輸出企業の好決算など一部明るい兆しが見えています。しかし、全体を見ると確たるものではありません。

国債に依存した慢性的な国家財政の赤字問題、さらには原発稼働停止によるエネルギー問題など難問山積に対しそれらをどう解決するか、まさに政治家の手腕の見せ所でもあります。消費税アップは延期されましたが、これを理由にした医療費削減だけは健全な医療経営のため是非とも避けていただきたいものです。アベノミクスの成功を祈るのみです。

医療を取り巻く環境は厳しいものですが、今年も職員全員でこの新しい年を更なる躍進の年と位置づけし頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



## 栄養科通信



### お餅 幾つ入れますか?

布団から出るのが辛い季節になってきました。気のせいでしょうか。私の場合は年齢を重ねるごとに辛さも増している気がします。子供の頃は、今ほど辛くなかった気がします。朝、冷たい水で顔を洗うのが嫌な位で、さほど苦にならなかった気がします。(とはいえ、湯たんぽの冷めた水でよく顔を洗っていました。)

この時期の子供の遊び場は、北風を凌ぐ事の出来る藪の中。子供のキャッキヤ騒ぐ声に、ヒヨドリや百舌の鳴き声もかき消されております。そんな中、落ち葉集めて遊んだものです。落ち葉→焚火→焼き芋…みたいな連想も出来ませんが、子供にマッチは持たせてもらえませんでした。焼き芋ではありません。焼き芋でないとしたら、落ち葉集めていったいどうやって遊ぶのでしょうか? 経験のある方もおられるのではないのでしょうか。

まず、枯れ葉 特に松の葉を斜面に敷き詰めます(敷き詰める距離が長ければ長いほどスリリング)。その上をお米や肥料の袋を尻に敷き滑り降りるだけ。松の葉は先が尖っており刺さって痛い気もするのですが、スリルを味わうには、松の葉は外せません。ボブスレーの様に物凄いスピードで滑るのです。危険の極みです。松の葉が、肌に刺さる事は大して気にもなりません。それよりも、滑る速度が速すぎて止まることが出来ず怪我人は続出。子供の足からはスリ傷が消える事はありません。常に膝は、赤チンで真っ赤っか。それでも『痛いよ〜』と言って泣く子供などおりません。当時の子供は痛みにも寒さにも強いのです。

寒さに強いとはいえ、夕方にもなれば手足、耳までもがジンジン痛くなります。破れたズボンを手で隠し温かい家へと急ぎました。玄関を開け、ストーブの上に小さな鍋がかかっているのを見た時は小躍りしましたね。中身は甘酒お汁粉…。疲れも寒さも吹っ飛ばす魔法の飲み物です。しかし、最近まで知りませんでした…。一般の家では甘酒にお餅は入れないという事をお餅入りの甘酒…。ずっと当たり前だと思っていました。

両親の実家がある龍山だけなのか、両親の実家だけなのか…。お餅のあるこの時期に、話しの種に一度試してみてください。(不味かったら御免なさい)